



after

たSUPに夢中になり、大人も参加する10月の日本代表選手選考会では見事に代表の座を勝ち取りました。兄の影響で小学5年生からSUPを始めた妹のいろはさんも、9月に開催された西日本大会



school

第一鹿屋中学校
やました こたろう
(右) **山下 虎太郎** さん(3年生)
一度集中すると最後までやりきる性格で、釣りが好き。家での自重トレーニングも欠かさない。

(左) **山下 いろは** さん(2年生)
SUPの他にも週1・2回フラダンス教室に通う。大阪府で開催される発表会に向けて練習中。

兄の虎太郎さんがSUP(スタンドアップパドルボード)を始めたきっかけは、マリンスポーツに興味を持ち、小学1年生からヨット教室に通いました。小学5年生から友達のお勧めで始め

て4位に輝くなど、兄妹で活躍しています。

「変化していく海のコンディションの中で、波の動きを読んでもうまく波に乗れた時がとて楽しく、飽きないところが魅力です」とSUPの魅力を語る2人。垂水市にある「マリナーパークたるみず」で週に6回練習しています。虎太郎さんは日本代表になって世界大会に出ることを目標に、いろはさんは同じ競技の先輩で女子日本代表の芝原叶妃選手(鹿屋中央高校2年)に追いつくことを目標に、これからも練習に励みます。

昔、度尾で起きた出来事にクローズアップ!



タイムトラベル ~温故写新~

32話

長谷観音と炭焼長者



祓川公園(祓川町)から肝属川方面に下りたところに、市指定有形民俗文化財である「長谷観音」という観音像が鎮座しています。これは永正3年(1506年)の作と言われ、奈良県長谷寺の観音像を第一として広まった観音信仰の南限に近いため、鹿屋の仏教の源流を探る貴重な資料として位置付けられています。

「三国名勝図会」にある長谷観音についての記述には「昔、ここには都から来た炭焼き五郎治と称する者が妻と暮らしており、ある山から青銅を発見した。それを都に持ち帰り大富豪となった五郎治は長谷観音の信徒であったため、この恵みに感謝し

て再び祓川に戻り観音像を作った」とあり、長谷観音にまつわる伝承も伝わっていたようです。しかし、この伝承は主に中世に民間説話として広く伝わった「炭焼小五郎伝説」に酷似しており、大隅と沖繩を巡った論者『海南小記』を執筆した柳田国男はこの点に注目。その中で「炭焼小五郎伝説は、北は津軽の岩木山の麓から、南は大隅半島の佐多からさして遠くない鹿屋の大窪村に亘って(中略)沖繩まで疑いの無き類話を留めている」と指摘しています。



▲長谷観音の背面には、肝付氏の姓である「伴氏鋭房丸」の名前が記してあるが、細かい家系までは分かっていない。